

企業担当者にアピールする外国人留学生ら
一名古屋市中村区、ウ
ィンクあいち

海外展開の中小、就職希望の留学生

十六銀が橋渡し

支援企業と業務協力

十六銀行は、海外展開する中小企業と日本企業への就職を希望する外国人留学生を橋渡しする仕組みを構築した。海外展開で欠かせない優秀な人材を確保する機会を中小企業に提供する。18日には名古屋市内でセミナーを開き、企業と留学生が交流する機会をつくった。



海外展開する企業に、屋市西区、張敬清社長と業務協力の覚書を締結。同行は人材を求める取引先企業に同社を紹介する。同社は中部地区の大学で留学生向け就職支援講座や、日本企業に就職した留学生を対象とした研修を企画するなど独自のノウハウを持つ。提携により、同社は留学生の採用に関するコンサルティングや採用後の研修サービスを提供する。

日本企業への就職「意欲」

十六銀行が18日に名古屋市内で開いたセミナーには、岐阜、愛知の大学で学ぶ中国やベトナムなどの留学生約30人と、約30社の担当者約30人が参加した。中国出身で名古屋大学大学院で学ぶ女性(24)は「日本が好きだし、このまま帰ってもチャンスが少ない」と日本企業への就職に挑戦しているという。中小企業だけでなく上場企業も参加。業種も自動車

名古屋で留学生セミナー

部品メーカーや小売業など多岐にわたり、関心の高さをうかがわれた。県内企業も多く、ある岐阜市の企業担当者は「工場勤務のワーカーではなく管理ができるマネジャーが欲しい。海外進出はまた具体化していないが、将来を見据えて人材を探している」と話した。別の企業担当者は「積極的に真面目な人も多い。日本人の学生より優秀かもしれない」と話した。

企業側にとっては、現地でなく日本国内で新卒の留学生を採用することで、自社の企業理念を習得してもらったり、国際化に対応した企業体質にできるメリットがある。企業の海外進出を人材面でサポートする同様の取り組みは全国の銀行でも珍しいという。

岐阜、愛知県で学ぶ外国人留学生は約7千人。日本企業に就職を希望する留学生は約6割とされている。中国・江西省出身で自身も留学生だった張社長は「留学生を活用しようという動きが本格化している。日本企業がグローバル化していく大事な時期で親日本の留学生は海外との懸け橋になる」と話した。

23.10.19 中日新聞

外国人留学生が中小企業と面談
十六銀行(岐阜市)は18日、名古屋市内で、外国人留学生の採用を後押しする海外事業支援フォーラムを開催、約三十社の担当者
と外国人留学生三十五

人が交流した。海外事業の拡大を目指す中小企業に、グローバルに活躍できる人材を紹介する狙い。名古屋大などで学ぶ中国、ベトナム、モンゴル、トルコからの留学生が、リクルートスーツ姿で企業との面談にのぞんだ。参加した名糖産業(名古屋)の担当者は「中国向けビジネスを大きくするには、語学や現地事情にたけた人材が必要で、採用を検討している」と話していた。